

ユニケア物語

～訪問看護と

介護保険制度について～



よろしくお願ひします！



今日からこゝが
私の仕事場！



サイトウさんのお宅行ってきますーす

「了解」
高瀬さんの申し送りよろしくねー

利用者様が待ってるからさくっと研修始めよ

は、はい！



よろしくね

この人が私の指導係の青木さん

「はい」



えっと…利用者様の自宅へ伺い

私たち看護師やリハビリの専門職の人が利用者様に合った看護をすることです！

訪問看護とは？



まずは鈴木さんがこの仕事を理解してるかテストしてみようかな

えっテスト？

そうだね
具体的には…

- ・健康状態の観察
- ・病状悪化の防止と回復
- ・療養生活のアドバイス
- ・リハビリテーション
- ・点滴や注射などの医療行為
- ・痛みの軽減や、服薬管理
- ・緊急時の対応(24時間365日)
- ・主治医、ケアマネ、薬剤師、
歯科医師など多職種との連携

病院と同じような
看護をするわけだけど
じゃあ病院との
違いは何かなの？

あ、
はい！

利用者様が
住み慣れた自宅で

元の生活に近い状態で
療養するお手伝いを
するということ
…です！

正解！

ほッ…

お世話をしている
ご家族の輪に入って
看護するわけだから

病院よりも密接に
利用者様一人ひとりと
向き合うことになるね

利用者様には
どんな方が
いるんですか？

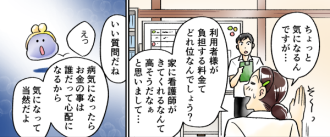
訪問看護は
必要としている人
すべてが受けられるから

子供から高齢者
さまざまな病気や
障害をもった人が
いらっしやるよ

例えば
カテーテルが
入ったまま
退院された方や
足に障害を
もっている小学生…

それぞれの
主治医の指示のもと
看護を行うから
不安になる事はないよ





ちよつと
気になるん
ですが…

利用者様が
負担する料金で
どれ位なんでしょう？

家に看護師が
きてくれるなんて
高そうだなあ
と思ひまして…

いい質問だね

えっ

病気になるたら
お金の事は
誰だって心配に
なるから

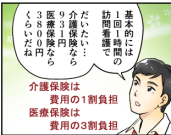
気になって
当然だよ



あ、思つてたより
負担軽いかも…

でも…

介護保険と
医療保険、
どちらが適用に
なるかで、結構
差がありますね



基本的には
1回1時間の
訪問看護で
だいたい…
介護保険なら
931円
医療保険なら
3800円
くらいだね

**介護保険は
費用の1割負担
医療保険は
費用の3割負担**

	年齢などの要件	自己負担割合
介護保険	要介護認定者 ※要介護度によって 支給限度額が設定 されている	月額1割(一定以上の 所得者は2~3割) ※月の支給限度額を 超えたサービス分は 自己負担
医療保険	義務教育就学前	月額の2割
	義務教育就学後 ~70歳	月額の3割
	70歳以上75歳未満	月額の2割(現役並みの 所得者は3割)
	後期高齢者医療の 対象者	月額の1割(現役並みの 所得者は3割)

そうだね
医療保険の中でも
色々変わるよ

保険の種類に
よって、一週間に
何える頻度も
異なるんだ

利用者様の
保険の種類や所得、
年齢によって異なるから
ケアマネさんと相談して
確認が必要だね

- ・いまかかっている病院
- ・地域包括支援センター
- ・市区町村の介護保険や
障がい福祉の担当窓口
- ・訪問看護ステーション など



どこのでも！
……ってわけじゃ
ないけど……



私……
はずかしながら
訪問看護の存在を
知らなかったん
ですけど……
どこに相談すれば
受けられるもの
なんでしよう……？

自宅で療養される
利用者様は
他にも色々なサービスを
受けられるんだよ



おっ！
鈴木さんは
勉強熱心だね！

どうするんですか？

でも私たち
看護師だけでは
ケアしきれない事も
ありますよね



なるほど！



自宅へ訪問してくれるサービス

- ・訪問介護……
食事、車イスなどの乗降り、
排せつのお手伝い、散歩補助など
- ・訪問入浴介護……入浴のサポート

自宅から通って利用できるサービス

- ・通所介護……
福祉施設などでの食事
入浴などのお世話や、生活機能訓練など
- ・通所リハビリテーション……
保健施設などで、自立を助ける
ために必要なリハビリテーションを行う
- ・ショートステイ……
福祉施設や医療施設に短期間入所して
日常生活のお世話や機能訓練などを行う

窓一側です。
ほかにも色々
あります。



生活環境を整えるためのサービス

- ・介護用ベッドや車いすなど、福祉用具のレンタル
- ・ポータブルトイレや入浴イスなど、レンタルになじまない福祉用具の販売
- ・手すりや段差解消など、自宅をより暮らしやすくするための改修



えっ
こんなことまで!?

条件はあるけど
保険が適用
されるんだよ



ホラ!
感心しないで
利用者様の
ところへ行くよ!

はい!



全然
知らなかった...

いい時代に
なったなあ...



きちんと
慣れるまでは
先輩の
付き添いが
あるって
利用者様も
安心よね

鈴木です

こにちやー

青木です

訪問看護に
きましたー

一週間後



佐藤さんは
胃がんの末期で
回復への療養ではなく

最期の時を
穏やかに過ごすための
自宅療養だ

佐藤さん
淡とりますねー

佐藤さん本人の希望で
自宅療養になり
佐藤さんの顔は
いつも安らかに見える



あの…

最近
主人の呼吸が
おかしくて…

オロ
ッ

奥さんである
トキコさんの方が
不安が強かったので

私たちはその心配を
ひとつひとつ丁寧に
受け止めた

呼吸が荒いように
見えますが
本人は苦しんで
ないようなので
大丈夫ですよ

念のため
主治医の先生にも
連絡して
おきますね



お薬も
飲み込みにくい
みたいで…

他の形のお薬に
変えてもらい
みましょうか

お口も
潤いてくるので
スポンジを使って
お口を湿らせて
あげましょう

こうして…

トキコさんも
やってみましょう

こう？

そうそう
上手ですよ





トキコ
さん…

はい…

トキコさん
ご主人の尿が少なく
なってきたるので
そろそろ 他の
ご家族も呼ばれた方が
いいと思います



おとうさん
今年もお庭の
桜が咲きましたね

この家に
越してきた時は
まだ小さな
苗木だったのに…

ニム…

立派に
なりましたねえ



それからほどなくして
佐藤さんは
息を引き取った

まだ桜の花が
残るころだった

私は病院に
いてほしかったん
ですけどね

だって自宅だと
最新の医療機器も
ないし…色々と
不安じゃないですか

トキコさん……
わしや家に帰りたい……



お父さん
幸せそう……

何日も、
何か月も……
一緒にお別れの
時間を過ごせて
私も
幸せ者ですかね



サヨナラを言える
別ればかりでは
ないじゃないですか……

だってホラ……



命あるものには
必ず別れがくるし

病氣や障がい
不自由な生活を
強いられる事もある

だけど もし
元の生活に近い
環境で療養できるなら……？

利用者様の
望むような生活を
させてあげたいと
家族は思うのでは
ないでしょうか

でも
それを受け入れる
には肉体的、精神的
負担は少なくはない

利用者様とその家族
両者を支える
手助けになるのが
訪問看護の役割だと思っ



代表理事の青木と申します。
こちらではどんな思いから訪問看護ステーションを
立ち上げるに至ったかご説明させて頂きたいと思います。

代表挨拶

私は、23歳の時に父を心筋梗塞で亡くしました。
第一発見者でした。
その光景は今でも手に取るように覚えています。
すでにチアノーゼが出ていた父。
何もできなかったと何年も悩み続けました。
悩んだ末に「人の役に立つ仕事に就きたい」
と思うようになり会社員から看護師になりました。
しかし、それが訪問看護ステーションを
立ち上げようと思った理由ではありません。



父の話に戻ります。父は亡くなる1年前に大腸がんになりました。

発見されたときには既に最終ステージの状態です。
主治医の先生からは「余命半年」と宣告されました。

宣告された父親は毎日のように「自殺未遂」を繰り返したのです。

私は、自殺未遂を繰り返す度に救急車で運ばれる父に付き添っていました。
その時診断されたのは「うつ病」です。
うつ病の薬を処方されましたが、全く効かず
退院すればまた自殺未遂の繰り返しでした。
夜間に病室で付き添っていても落ち着かず、病棟を徘徊する父
泣きの合わない独り言をただひたすら言い続ける父

本当に身体だけではなく、心までも蝕んでいく、がんの恐ろしさを今でも覚えています。

そして、父は心筋梗塞で亡くなりました。
あの時、私たち家族は何もできなかったのです。
不安だらけで心身ともに追い込まれて行きました。
自殺未遂の傷が治ればまた退院して自宅へ戻されました。
私たち家族は家に帰っても不安です。
いつ自傷行為をするのか、がんの進行によって死んでしまうのでは
ないかと不安な日々を過ごしました。
「あの時に相談に乗ってくれる医療者がいてくれたら少しは安心できたのではないかな？」
そう思うのです。

実際、あの時に頼れる医療者は私たち家族にはいませんでした。
病気を抱えながら退院される本人や家族は不安を抱えています。
そんな不安を少しでも和らげて穏やかな在宅生活を送ってほしい。

このような思いから私はこの訪問看護ステーションを立ち上げました。
「不安」を抱えている方々のために、その人らしく「家で暮らす」を
支える看護を提供したいと考えています。

代表理事 青木創治郎